

# れんげんだより②

## 第2回研修

発行責任者

員弁組連研事務局

松隆寺 渡辺邦俊

### 「今月の仏事作法」

#### 「讃仏偈の唱法」

＊今月は、この連研で毎回お勤めする「讃仏偈」の唱法です。

＊合掌・礼拝ののち、経本をいただきます。

＊経本を開き、磬を二声(二回打つこと)します。

＊撥で磬を打つ際は、磬の内側、外側のいずれでもよい。磬の大きさ・高さで打つ位置を選びます。

＊しつかりと拍を取り、テンポを合わせて発声しましょう。

＊お勤めの最後は、磬を三声(三回打つ)し、経本を閉じて、いただいてから、合掌・礼拝します。



草薙善照住職  
(13日講 照順寺)

### POINT

#### 経本をいただくということ

お勤めを始める際、経本を開く前と、終わる際、経本を閉じる前には、両手で経本を持ち、頂戴して(額の高さまでいただくこと)から、開いたり閉じたりします。

#### 経本のめくり方

開いた経本をめくる際は、一頁ずついねいにめくりまわす。よく開く頁には華葩(けは)などのしおりを挟むとよいでしょう。

### 一日の研修の流れ

- 18:30 受付
- 19:00 開会のことば(司会)
- 19:01~19:15 仏事作法・草薙善照住職  
『讃仏偈』の唱法
- 19:15~19:25 勤行『讃仏偈』
- 19:25~19:35 問題提起・丹羽龍美住職
- 19:35~20:25 話し合い法座  
※移動時間を含めます
- 20:25~20:35 休憩
- 20:35~20:55 まとめの講義
- 20:55~20:59 諸連絡・『恩徳讃』
- 21:00 閉会のことば(司会)

### 今回のテーマ

「戦争をなくし、平和を築き上げるにはどうしたらよいですか」

#### 話し合い法座で出された意見

＊戦争を考えるには、その背景、とくに歴史を知らなければならぬのでは？

＊悪者が本当に悪者か。見方を変えると、その逆も考えられるのでは？

＊自分と違う考えを否定しがちだが、もう少し柔軟に、相手を思いやる心を大切に。痛みを分かち合える気持ちの方が大事。

＊戦争を知らない世代が多いが、正しい教育をする必要性。

＊戦争をなくすためには、「抑止力」も必要ではないかとも思う。

＊戦争はなくならないと思う。だからその後のことを考えるべき。

＊人と人は理解し合うことは困難。だから戦争はなくならないと思う。

＊社会主義と資本主義の違い。互いに考え方が違うので争いが起きる。

＊宗教の違いで異教徒を排除するようなこともあるため、宗教自体をなくせばよい。

＊私たちは戦争を知らないのも、もっと詳しく経験者から話を聞くべきだ。

## 話し合い法座



(1班)



(2班)

## 今回のまとめ

「戦争をなくし、平和を築き上げるにはどうしたらよいですか」をテーマに、受講者が2班に分かれて話し合いの場をもちました。

日本は77年間戦争には手を出していません。国民の大半が戦争を体験していないから、その残虐性・悲惨な様子は人の話とか写真映像でしかご存知ない。

そうした中でも「話し合い法座」はかなり盛況で年輩の方も数名が体験に似た話を出していただきました。

人種差別からの紛争・領土を巡っての争いから戦争に発展した過去の事例は多く、現在世界193ヶ国の中で紛争が46ヶ国、内戦が24ヶ国という情報もあるほど世界は紛争と戦争が絶えない。「武器をなくすれば良いのに」「国境をなくすれば」等のご意見もありました。戦争に関しては理想論が通らない現実が横たわっています。

中国の歴史から民族の根深い怨念が戦争を引き起こすとか、ことばをはじめ生活も文化も異なる

中で国家として無理やり統一しようとするから、常に紛争の危険性ははらんでいるのだと。

またアフリカ大陸では民族対民族の競争・利害意識のもつれから戦いになる危険性を引きずっているとか。お詳しい方のご発言もありました。いつかの機会にてその方を囲んで戦争の学習会を持ちたいと思ったほど識見に富んだ受講者も居られて話し合い人材の豊かさを感じました。

印象に残ったのは「どの戦争も原因は単純なことが多いので話し合えばきつと上手く収まるはずだがな」これは極めて貴重なご意見だと思います。時あたかもロシア・ウクライナ戦争の最中で、私たちの思い・願いを受けてくださって、慎重に話し合い、一日でも早い戦争の終結を念じるばかりです。

次に印象的だったのが「戦争には決して参加してはならないことを学校で教えるべきです。」と言われたご意見に一同深く頷いたことでした。

東京の千鳥ヶ淵墓苑で毎年9月18日には、西本願寺による「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」が営まれます。この際、本願寺派総長の『平和宣言』があります。決して戦争には手を出しませんと、日本全国そして世界に向かってお念仏の中から発信しています。浄土真宗の門信徒・僧侶の決意表明です。



丹羽龍美住職  
(13日講 浄願寺)